

「ミライの体育館™」の設置
～大型床面プロジェクション・マッピング装置を備えた世界初の体育館～

国立大学法人筑波大学は、附属大塚特別支援学校の体育館を改修し、子どもたちの動きや動作、集団行動を計測するためのカメラやウェアラブル機器を活用し、それらに合わせて床面や道具などにプロジェクション・マッピングを行うための設備を備えた、「ミライの体育館™」(商標登録済:区分第41類)として運用を開始しました。今後、この体育館において、発達障害のある子どもたちの社会的な行動を見守りながら、社会性を育み、創造的な活動により自身を表現する力を養うための最先端の情報工学・発達心理学・医学における学際研究を行います。

- * なお、学校施設のため、一般公開はしていません。
- * 本研究は、国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)の戦略的創造研究推進事業(CREST)、萩田紀博研究総括(株式会社国際電気通信基礎技術研究所 取締役)の研究領域:「人間と調和した創造的協働を実現する知的情報処理システム」の平成26年度新規採択課題「ソーシャル・イメージング:創造的活動促進と社会性形成支援(研究代表者:筑波大学・鈴木健嗣)」として、平成26年10月1日より研究を開始しています。

筑波大学は、世界最高水準の特別支援教育を目指す附属大塚特別支援学校内に「ミライの体育館™」を設置しました。今後約5年間をかけて、未来の子ども達のために創造的な活動を促進する情報環境を構築するとともに、ICTと先進的な情報学研究における本学の教育研究上の拠点として活用してまいります。

体育館は、体育やスポーツを通じて心身を鍛える場所であるとともに、入学式や卒業式といった晴れの舞台を祝う社会的な場所でもあります。子ども達の表現力を伸ばし創造力を育む学芸会や音楽会、日頃の成果を発表する展覧会や学習発表会、生徒・児童が集う全校集会等の学校行事だけでなく、地域の人々との交流にも利用されます。「ミライの体育館™」では、最先端のセンシング技術を利用した社会的行動の計測と、個々の生徒に情報提示が可能になる複合現実感技術により、発達障害のある子どもたちの社会性形成の支援と創造的活動の促進に資する研究を行います。人々の表情を理解して、他の人と交流するために行動するといったことが困難な子ども達の理解を助け、その行動を支援するといった次世代の情報保障技術を通して、知的障害児や自閉症児、および他の障害児も対象としたインクルーシブ教育の推進に大きく貢献すると期待されます。

参考図



(左)体育館に設置された大型床面投影プロジェクタ (右)プロジェクタの投影例



11/21 大塚祭(文化祭)において生徒による花笠音頭の際に花吹雪を投影

問合わせ先

鈴木 健嗣(すずき けんじ)

筑波大学システム情報系 准教授

〒305-8573 茨城県つくば市天王台 1-1-1

E-mail: contact@social-imaging.org

Tel: 029-853-5761

URL: <http://social-imaging.org>